和漢朗詠集

平がな付講釋入

上

内閣文庫

和漢詠集

東都書肆　青雲堂求板

内閣文庫

和漢詠集巻之上

春

立春　子春　春興　春夜　子日付若菜

三月三日付桃　蓬春　三月尽　風三月

蛙　鶯　梅付紅梅　柳

花付櫻　鄙遠　歌枕　霞

夏

更衣　卯月　夏夜　端午　網涼　晩夏

花橘　蓮　郭公　蛍　炎暑　扇

春
詩文　九十七首
和歌　四十六首
夏
詩文　三十六首
和歌　二十三首
秋
詩文　九十四首
歌　四十六首
詩文　三十二首
歌　十四首
雜
詩文　三百廿六首
歌　八十八首
通計
詩文　六百八十四首
歌　二百十六首

秋
立秋　子秋　七夕　秋興　秋晚　雁歌
八月十五夜　付月　九月九日　付菊　九月尽
女郎花　萩　紅葉　付落葉　鹿　付猿　出　蟋蟀
雁　搗衣
冬
初冬　冬夜　歴書　燈火　霜　雪
氷　付表氷　霰　佛名

和漢朗詠集巻之上

春

立春

遍照　潯陽不堪芳草綠　長恨春歸無處尋
將軍　數枝之恩

池凍未開風度竅　寒梅小面雪封窠

柳無氣力隨先動　池有波文不盡開

今日不知誰計會　春花春水一時來

和歌向陽文寒藪雪　春生雪火曉煙燃

中臣朝臣

▲夜のころはそもそも浸もむもむしの
水のそこのうぬをまろ風はあさくを
ひらそはひさしくさむしはやはすくるう
きのつようるまぶくきらもまろこ
よのふをよめるはをまろ俤しやと
○水きて田地よりのあれさるはきの
みちく初のしき出るこくまの紅の梅の
えをまてやをやきるはのこくもれをを
○まの梅をやをまるはをのるるの風のやき
梅のはをきくやををはてまんとつるる
はくうやく清をあをへるるをあが梅く
来世をのくうまるを
○まの紅梅をあるすの少をの梅の梅
遠くあつを紅梅をあをしあをあるゆえ
梅のあのえをく井ゆるをしくあをを
○をを出るををしびのををのちのくく
梅のをくまうはるを人のををるるを
まをしをあのあをををを梅をを出ちは
きうのふるをぬけをくを出るよ似をう
○をれをれをくまの風の梅梅ををいまを

独ひちくひををしをの乃をを梅
をををつをのをを梅やをく梅香
雲をの門をををををりまやををを
をををををををけをはをを梅 邦光

子春

氷消国地董雉鶏春入枝際柳眼低
先遣和風拡消息鶯春流来世
東岸苑梅之梅蕊已吳
紫蘂嫩人拳手玉童雉鶏春
氣嘉風柳柳柳

岸柳風定綿屋く絲

着野屋数部清遊元遊織紫雅綾

林中花鶯時華為外越絲或為垂

笙歌春月都く思清遊春風愛く情

春夜

宵燭共惜春月踏花同情少年春

子日付若菜

侍松樹廣懸風翻紅也和

若菜春霞紫色紅乳味く春風也

侍松樹乃廣懸子年乃繁滿乃彩栄

花を挿頭二月乃当為衣

初のひも永形をうつしたりとそ

ちよ中たりあをもみちのうつ

見よひうれそうはをやたん

初の日しよ春つる野へ出ひやとま月

しるやうのよ

美菜

野中花業世事推量遠山霞下和義

俗人屠蘇翁指

三月三日桃花

春来通花桃花乃開花源何意紅

春雨桃李

桃李

風流桃李

桃李

桃李

○柳のえだ[illegible]

○[illegible]

○老[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○

○玄宗皇帝の人のかたちをよくかきとるよしをいふ
○玄宗皇帝の人のかたちをよくかきとるよしをいふ
○玄宗皇帝の人のかたちをよくかきとるよしをいふ

く必ずかくるあのそつげくうまつりとバ
◯わさみどりハえのいろうすめどきまつ
松のみどりまさりうもの少きこゝろとゝ
◯海山遠近のけしきもうゞひすいをうる
つるゝばひるゐくハえのんゐくゝ
○わけりのこゝろすゝハわくひゝ必火よ
さゝゝえのさらみどりゐれもくゐ竹
を必ちゐゐゐのゐのゐゐゐ
○まあくく陰くのゐ鶯のこゑきう
あつをゐゐまづるえゐゐゐ
あることゝよゐゐ高いく陰ゐゐるゐゐ
まゐさゐむゐれバ一陰ゐもゐゐぬゐゐ
◯ゐのゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
◯ゐゐさゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
○まゐゐのゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

あさみどりわるうらうらひあん
うつしゑもまくぬ人はあゝゝゝ
うゐいものこゑのうゐはゆくゝ
ゐくゝゐゐをゐゐゐ

鹿

霧光暖陰殷お大茶毛晴来嫩如濃
猿泊茶兵三分計湾樹鹿飛来陰雨

雨

ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

○滝のゐゐ祖ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
時ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
花橋のかゐまでもゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
武陵弟のゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

○梅の花ハ[illegible]

○白梅のちりて[illegible]

○[illegible]梅ハ[illegible]月わ[illegible]

○陶淵明門の柳[illegible]

○みツのゝ[illegible]

○上[illegible]

○[illegible]

▲性[illegible]

▲まとせとしの[illegible]

▲まのすゝ[illegible]

白雪梅花
梅花雪色琴上柳条和煙入澗中
梅花雪色新春裏徐徐玄風未解先
青絲弦上陶門柳白玉裝成度嚴霜
玉顔蓋〻[illegible]
雖言玄色[illegible]
[illegible]

○[illegible]

○紅梅の[illegible]

○紅梅の[illegible]

○仙人の[illegible]

○[illegible]

▲人の花[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

紅梅

梅含[illegible]
淡紅[illegible]
妖燈[illegible]
[illegible]
紅梅[illegible]
[illegible]

柳

かきの柳かをぶくきさびのさうが風まびき
○彩柳のえぐのびやうう中りきぞの春を
ちらしてゐる中一位そぐ撫へ上る人さう元ぶ
○柳の春立神女ひりよ人くこれをまつる
亜女廟とら人成系れ彩一神女の紅粉は似う
主明春八夫人くを作ーさの柳れ廟うし云
○彩よ金でて一ぶく年老くハ無きく春
ちりきるバつぞ一白の柳ぶうんく
○大内との柳ちて紫へ彩柳と宇山の
春ハ中ぎさう手ずされば柳とうめのあぐハ
柳のしどうのさどしてもあをべーく
○初日の出のさ白ぎとう紅のうくを聚まよ
似う 枝業八年ちくさき柳おめをくめうハ
春ぶうくを白とえ白かれを春風がうます
○柳風柳を春ぞう春ぞうるをいりんて
春の月ゆげ白しと似う薄恵嘆う生ぶく
ーま池を柳のうをうーしていく
○ちちの春ぶ月ぶうび柱を春の柳れて
枝を変す風ぶく時を春をと柳というぶう

林間河愛山夢程 橋柳雅象嘶 鶴蓋
潮那拂他陽馬 宮殿春水 亜女廟花紅 柳彩脂 春村柳墨 柳春
池知老去風情 力見 争愛一白 詩
大夜炭れいのむめ 柳春雅 柳彩 春 直 春山
のうくハいぎひらわる
く春未年豊 愁紅
雲翠紅 柳 枝業日春 蝸 茅 殊 嘶 柳 風
愁宅 遠 晴 春 月 晴 清 池 亜 日 水 嘶 源
深山月 池 交 枝 柱 春 口 風 来 浪 春 歌

▲きびの柳なびくころ花もさき交ぐうう
▲ちうれをの春うきゆ春
▲柳のめをちくいまさかをを出ぬをまゐる
ちうりくきくいこのまのようくうまれく
柳ハ春を春ぶれば春ぶくきちちくこ
○池の春ぶ門よものごひらさて上林
花とえづくまえさうくと春きぶうう
ぶ一九春のちまを春春一人ちく
ちちををておきりしく春花をこくを
春風春ぶ春ぶちちまちぶ春ぶの月
うちちよりれの春をてしみくこう
○池のの春をくあいよちちちく
まれのれるるひりうかぶきぶのくく春
をやくこうてりーさ花ようやまいちく
○たつときも中きもちきくきくきも
ちーぶくく花ぶよ人春のあをびのさ白
○花を春ぶよ春ぶ日春みぶきぶ春ぶと
ーくく春ぶ春春をくあちうちげまれ
ぶきをを不春方野のむちつちの白ハ
春ぶにえぶーちりてちーーーーーー

あをやきさの
ちちちちくくちちちち

[illegible]

○[illegible]

○花の[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○

[illegible]

▲花のちるとぬきとんすーちつるをさむさ
さめるるまのどうるる花のるれを之
▲[illegible]
れのきよめをまるるのこころ
○紅のつゆしのやをきそ[illegible]
さき白ぎまつ八重と拾く秋の風どももぶ
○秋のを水人ゲつしのあきを火とんぶ
りりびとんんをりり八重と銀の家まわて
火るるとりひれりるく[illegible]へ
▲[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

▲花のもとゝ[illegible]

○[illegible]

○若ハ[illegible]

▲きゝハ[illegible]

○かれる本ハ風のうゑたれ[illegible]

○[illegible]

前栽

[illegible]

菊

[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

端午

[illegible]

▲きのふまで[illegible]

網源

青苔地上潤雨後樹法花經晚涼

新蓮清英逸客清風襟蓮清英秋涼

不見孤房無數孤燈思紙衾新人新月樂涼

斑騅婦風當高樓代眺風月長夜

燕昭王拔海水蓮月清

卧見新蓮陽乃漢沈乃古集網涼

池水新三伏最松高風之一夜蟬

やとしたさむつたちたちのれそ

あつさしのそまるとしのそれ

晩夏

竹亭法会倫冥裏水涼風源乃清秋

交ちつるわつさ秋乃ちゆやつ

ちつもらさまをうんとこ夏

神さこしつるとしあるの神ゆをと

ちるるとんをいつるる

花橘

垂花子低山面重樹桐裡裁乃風源

枝繁垂花面低色蓋黒蓬凱風裡

▲ちはやぶる仁王堂の中なる堂に詣るを
[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

ちはやぶるかみのいかきの人なれば神のうちとも[illegible]

蓮

風の音聚葉陰深水蓼秋光霜葉紅
葉展手龍鱗加身蓮冪兵藪入蓋風
焔耳響扇清風晩水波紅衣白蕊秋
蓮作投俗意高潔蓮動是恩抱
孤行更異出俗是蓮者不染
俗如蓮同仏為眼初開蓮蕾根
[illegible]

○わけかの[illegible]

一[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

郭公

一聲山鳥曙雲外万籟水蛩秋草中
[illegible]

蛍

螢火孔雀秋[illegible]
蓮蕊水暗[illegible]
[illegible]

月の光をかつぎ風むすをつびよねど
○雲火やく山の紅葉ども雲が山のきを
彩るつとうとうるまくやる光海苑
どもわば流れよやうやうやうとやうく
▲ふさむしのやる火をわきちいそのと
をしをえうが風はきえぬをさてハ
やうやうくわしとゝ
▲ちくわものうこれをのぐるまろの
宮女のかりく敷まの祝をうひゆひを
まを女うひくうしまうとあり
○むのいとゝ宮をかやうく奉の姫宮
星山光非女をわまび温泉のかゝすねう
さを帝うろ風のうきけしをうしまいく
宮をもの人撫くもつきてゆわくれ
○秋くつ〻ゝをうをあぐれハやうさ
の〻柳あをうみをう夏六月のそまく
せをのまハるゆ春の秋をかうとう
八姫宮のゆ〻れしをあしをうハれをて秋の
こををきをゝをつきをの光もれく流
宴のさくをうしもくつてをいのゝをの

わをつまんやうへんを
蛍橋雨月お庶所
山庭を素都
池湖賦第
水霧流
蛍
蛍く光春月玉鬘暁光温泉蛍蛍く
光秋風山蛍蛍光雲樹紅
蛍雲路金物の天月蛍影遠表秋
雲下緑苑蛍蛍蛍蛍蛍蛍蛍秋

○今年八例年のもせをの蛍のかのく
物きをゝをせをのをかをうあり上れ
橋あるくをうしむをくきをゆう
○月八ありさまれをせをの蛍八年月
きれが秋の後をぬけのうせをまなをとハ
いつ〻ゝ
▲夏山のゝのゝくんハわきゝ
▲をのいろう女よせをのをぬけをつみ
つをすををうをあるをうぬと云ゝ
をうをうくんのをうを紫をうをかくせを
のゝをあをうをををを戸ををを云ゝ
○さくんをあつき夏ゝをあををくゝの
風八ゝをあをゝをを年のをゝをうを
をををををををれば秋のをゝし
をのゝをありををを八をををををる
○月八秋を朝ゝく如をゝをれをあの
月ゝを夏をゝく秋をまをあををう
月八秋を夏をれをを八秋風をぬ
夏のをゝをよりをあをゝ
▲この川秋の夏七夕の秋ををを

今年実例年陽先所不見蛍出あをを出
蛍去年未秋手変年を秋蛍をぬ宮
夏をのをのをのをのをのをのをは
こををををををををををををををを
ををををををををををををををを

扇

壁夏不消高雲風扇生
裏義月入時中
不朝雲扇初ら好唯歌秋風未忘
あまの川かをををををををををを

▲かわぎりの中のよろぼひのよわつぎ
のをバ氏風ハ天下の万民所なまでも
これをびく〳〵しとしてつるかり
○蕭瑟ハ秋風のさち涼き風と枯老葉の
やとりのとくしんかりく秋のふかき一時と
かくハめるべしとの
○鶉ハ庭よりあるをの〳〵紅葉をもつ一架の
庭まちるまたくこれハまさに和秋少くき
ものなきを一説ハ槭を結ふ結末とハ紫霞
ぞろハ槭なる經ハよりて和ハ庭とのこと
庭上一架ちる秋風のもちもつく紅葉ハ
ものちる声ハそうかう經乱まの四字
○さやろハあさ母とのこと
○うちつけハ一あうとのこと
○異ハまく三文のおそうよさるべ晋潘岳
かくちもこれとりしが三十二の〇繁ハ面繁ハ
二毛ちなにてるう三十二を二毛の年といへ
三つよあつさのるとのこのちろんで月の
すぎさうく花の本をあくさる
○槐の花と和秋のあるようかり〳〵きのそう

あるのうをあつきのうせるよ者をあく
そしてもそんもそるこうさきのを
あるるもまりひるあるのうせるの中
るひうぬくくをとあくくをとあるよ

秋之部

蕭瑟凉風白露繁淮敷計云一時秋
鶉鶺鴒間秋之の經芝題処晩新撰
あさくぬくめりてさやうよこんくねくをと
うのをくをとあるのをくきこの紅ちる
うちつけよりのをあるのきこの紅ちる
あされをくしめをくをとあるくを

子秋

但表異ハ三体去年和秋之二色未

槐花面淫彩林地桐葉風涼那表
炎乗剥物衣尚重晩涼潛与菊之和
あさくをくをとあるのうをはたくをすくを

七夕

怪乃年長乞巧竹羊鵝之形線面
二星適逢未叙別結体くるる拙歌
拙歌歩翠涼風颯くの新
彩面別涼雖年長乞巧竹羊鵝之形線
古衣裳浪乗面涼雖焼侵流風那涼

月ハたゝ[illegible]ばかりくもれさてのかはのほ[illegible]
[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

秋興

林間煖酒烧红葉石上新篁掃綠苔
[illegible]思物花[illegible]水次高[illegible]清猿叫秋
大底[illegible]時人思若能中[illegible]生秋[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

物色自堪惜傷[illegible]
中秋感興
賀一[illegible]
蜀葵[illegible]字花味[illegible]
[illegible]
[illegible]
秋晚
[illegible]
望[illegible]月[illegible]

▲小々しかハ来ぬよのつゝ

○とのゐひまつくいく秋のゆくき秋が
あけるあろねしてぶれハ天もいろ〳〵
あのゝくゝりびのくゝのきくゝるゝのゝとし
ろゝ〳〵あれぶ月くむけろげ出せるゝ月
ゝくき夜のあハまぎゝろ秋の秋おしまぎ紙
○あゝまぶ月ぶ秋ぶよゝくもあゝひよゝくく
秋の秋もゝくゝ月のゝひの月ゝ月ぶ
ゝきゝもゝくゝやあけゝくゝあゝのゝゝくく
○紙尚ゝてゝうあいの年紙紙年くく
のゝ蟲ゝ月ゝいゝ十二ゝの蟲秋ゝのくく
白氏あゝれゝてゝしゝゝを作るゝ秋ゝの月の秋の
秋ゝのぎくハ秋ゝ月ゝのくゝゝのゝのぎくゝく
○行ゝつゝゝのゝろゝんゝゝてゝゝゝゝゝハ
ゝゝゝゝくくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
○あゝ秋ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
▲ゝゝひれゝあゝとゝゝきゝてゝゝとゝゝゝゝ

をゝゝゝゝゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝのゝゝよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

秋夜

燈夜長くく世ゝ聽ゝゝゝ月秋ゝ秋ゝ秋ゝ燈
月壁ゝゝゝゝゝ蓄ゝ蟲面ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まさうてきさ(ば)ゐ万里のやまぐちのく
ものとを来ぬ〜こゝすぎて月のきてきはおし
○秋の夜すてたりのきよ月映し秋の風
ひやゝかるなぐあせ池のあをあをとゆゑ
○池のてもすでよ月のてをあをてをてを
うぐひゐのそよえいまるハ芦の花ゐ面の
のちよちくのゝろゝとえひろゝ
○池の面よ月の光ひしく松のこゝろ面ゝ
ゐくゝくまゝ月すて来のすもをし
○長命のゝくゝよ池ゐゝ面ゝ
瑤池と名つくゝ山ゐ池ゐゝ月の光ゐ月ゐ
○秋風よつゆのもゝゝゐつゝハ浅をゝ金ゐ
のゐつゐゐん金ゐのゐゝよ月とゐゐゝゐゝハ
ゐゝと細ゐ玉の匿ゐゝ
○たのまゐかまれよゐくをゐてゐゐ
陣のゐゝ人ゐまゐしゐゐよゐまゐ美浦ゐ
まゐ人ゐゐくをんのゐくよゐゝ人ゐ面ゐの
ゐの月を思よかゝう
▲一ゝせの月の光をゝゝれば秋百の
ゝゝ人中ゐゐゐゐのゐゐゐ月ゐゐと

外面争花春鶯〻光

瑤池金波三五初秋風計云仙居

自鏡荷葉凝露玉人居蓮花過面

門白蓮迷杉上鶴深鏡の美蓮中玉

瑤池波光月清秋玉不知

金鏡一流秋風動玉匣三更清露

揚子江頭帰帝思美人去遠望情

ゐのゐをよ月ゐゐをゐをゐをゐ

ゐゐゐゐのゐゐゐゐゐゐゐゐ

月

○ゐをゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
○ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
○ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
○ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
○ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
○ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
○ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
○ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
○ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
▲ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
▲ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
▲ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

雅人酔外久徳我仙家庭花彩前軽

秋水澄来初月清遥看月影正

天山不翁河月色合浦玉遥看月

那知岸辺其京花宮殿月

滑稽教彩江我客接歌一出釣漁翁

あゝのそらゝけゝゐれハかゝゐ
みゝされゝよいゝゝ自ゐゐ
ゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○社日はやくの社をまつるなり八月社の社日
はわかの社の社日をまつるなり
○九月九日菊黄さきしをむとをひろ
ぐ菊をとをしてはしめ菊の被をはらひ
ぬぐるなり菊を紙にてつつみ
なるなり七日菊にて十七八菊のこしとこの
ためしとなり
○こがねさきは四月三月出しをつぎ時
のむしろをせられ公もうとうの花より四月
をとこ花をとりてをつまり
ざらはきこの月八月のかの川めぐりをし
四月十五日きこけ四月のこうるはときう
ぬ秋のをこ法八月よりめぐるなり
○ちかのをきこの名ぬれぬるほうと
菊花をあ　ふるせ　しをせ　いろと
をもはも　地獄は　仏方は日精と菊をこれを
紙　こ石菊をこの菊花をこの
○九月九日　付菊

蕚初社日摘菊而重陽翫月冥
搖扇於漢武朝亦菊
為人之花
紅蘭文亦菊花如
之三逢
十分
霜蕚玉葉三分白露
菊新花一朱黄
谷水洗花
地脚和味
つ中のこ
つくつ

○花人の菊をもてあそぶ
十月十日八月九日
○花のうちこうて菊のもとをもとめ
ねとをあくの花のまはりをきは菊花も
なれば
○花は秋の時をもはらはして
ぬ
○花は秋の時をもはらはして
ぬ
のちまぬまんとをきうくをとの
きまうつ未まれば菊おちすめ
こどきくはぬ
○はきはんはきはは村さこ
菊花をこ
垂きはわやうきこざはせ
○はんのをのはられやく
こちはさかのの
きくのをこの
○おちはのあまはは
はせれどきくはやうはは
ををひくの

霜蕚玉葉三分白露菊新花一朱黄
不見花弟偏見菊此花菊花好文也
風流好事軒杉柳之間秋来
菊歌
菊歌
郡縣村閭皆浮盃
菊花自然為仙骨
菊花閑擇茎葉間

▲秋風白く吹きて菊花の黄なる時なり
▲上ちくとあ[illegible]
○[illegible]

九月盡

孤山清函[illegible]
金風玉露[illegible]
頭白孤[illegible]
文章[illegible]
[illegible]

女郎花

[illegible]

▲あやうく[illegible]
▲[illegible]
○萩は[illegible]
▲[illegible]
▲[illegible]
▲[illegible]
○[illegible]

花色[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

萩

[illegible]
[illegible]
[illegible]

こゝは三月くがつこゝはやさきもくれてゝ

○日ハ枝葉の梢ゝ出とゝ四ゝ枝葉ハ日の影ゝ朝夕日のかゞやきゝ〜ゝ色もあり面〜〜〜

紅葉付落葉

不堪紅葉青苔地　又是源氏蒼苔天

黃纈纈林葉　紫斑斑竹枝

澗中清淺水　獨踏乱蕭疎

外物獨醒松間色　惜波合力洗清秋

しらきくのはなのえだをこひてもやせんとるあり代教をよ代せんとう

▲ここのうのふをこれかとそうあるかなをいかはとうしてやまれぬそまれへとしらをわくるかすこいわしこと

▲花むすんはるをあうう多のかくもり月

ろひとあせんとそ花のよさあくものをとろ

○おきさけむろよ多をちしきこをしき

風よれがさ多のうしきいこびしきを

○黃赤文を黃纈纈と云紅葉のをゆ一と

多がきこをしてをありとをうこどうう

ちうのどくゆがすむものどうるしきと

○澗中よわくせむれるとのどくふとの

をくうの多をふさびくゆのぬいりの林をと

○林木のこをゆ多をしを解るどきみのお

ふ松をきくるのをの秋の間よ解ず猶

さをう風波八風の多うの波く歳年の

多よ波の多ををゆちうをを金をるうちう

うくる多をふうきをくゆよゆうう

▲多かりしれをかまでををわるを

ゆりくハ猶也と出仏偈仏せもう多

をををゆりくとををを

○九月ちうれが多をくをゆの波れをを

くるゆりあるを人のわくををきををはよ

秋の多のきのをつくを多をるを秋びのを多

下の多ハ松をををうれかちをるゆを

をつゆをるつをき事ゆのをを多をう

○をれをくもをを庭ををふゆも及ぞ多の

杖ををきをうのをををわをくわのをの

○多ゆ波文枝の柳橋をををせをくを

きくハをのををくををはをれをくをきを

をのををくしくわをれをゆをるを

○枝林の多のからを多をを代を多の

多ををねハむをくをくををうををのを

をををよ代をを多をのをの林をれをを

○樵薪ハからををゆをうをとをうつ水をを

わをくををきをつををくををを人多

阪多をこのをてをきをを多をををくをを

多雅代ハ仏人を金丹をれをくををうを代

をの也紅多をを代をを

落葉

三秋白露沾而最愛落日照万里白

卿園外の生涯落葉意源

秋庭手掃携杖閑過柳桐黃葉多

柳亭梅湯掃落秋出而多老人心

梧桐秋中一葉之雨意源

教所紅終殘

樵蘇煙及杖案集賢院紅葉遍

極履端蔦雅紀く葉

○[illegible]秋のわしの[illegible]
[illegible]
○[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]
▲[illegible]
[illegible]
▲神[illegible]
[illegible]
▲[illegible]
[illegible]
○[illegible]
[illegible]
○[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲[illegible]

○切くハ[illegible]のすぐゝ[illegible]

[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

▲たのめ[illegible]

虫

切く晴[illegible]

心[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲秋の[illegible]

○山[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

○九月三日の月[illegible]

○[illegible]

▲さかりハ[illegible]

鹿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蟲

可憐九月初三夜露如[illegible]

[illegible]

霧

竹雾嶮嶽衛厳月霧風嘯色色江春

雖然白雾輝人枕形色形色生る

搗衣

八月九月正長夜千万砧杵一時

砧杵星前横枕月南楼月下搗衣人

搗衣晚砧風月冷裁得秋衣衣裏人

裁出遠近長短色色砧杵色色著

風雨書花裏神華月影梅梢雨影

幸く別思秋夜嘯秋夜嘯

初冬

十月江南天気好百花零落紅花

江時寒歳三分減万物遥遥生涯

庵上雪収青竹葉篇中雨出白鄉衣

神るつもれるしらめるもの

○ さくのうり大きもさむくなりのみは
おもしろくあるこらあるのさまをいと殺生乃
あく　あ浦なのをてらあ　あ　まのうちを
○ここの夜うく　ちもぬ枕のうまりひ
ゆ　せ　ゆのもさもうく　をまの　り　をと
つさて　まうけとうこびのはしこ
ハかくひまうむ
▲いもうゆけハ　ゆのりくりをさまを
まの方へ　をちち　ちをづひゆくらどれ
ま　ゆさうひさゆきをの夜いをを　ハ
二　をのうり月ま　ゆのをくうもみ
うせうをとをうはてりてもぬさ
らうをくさむうみ　さうう
一　ふるうちよ年のうをうをうをく風む
人のめのまをうゆもしをふ暮月をよ
月も　をのうさうくるゆうちくうりゲ
▲うみまうゆうをかけまさ　年も　
ぬをりゆ　ハりさ　ますうう
○ゆをうさみををうけうををりてをく
しへれハあうをうをりうの　ゆ　ゆ

夜

一壺の　燒　秋　枝　壺　酒　酒　中　壺
月　月　月　月　月　月　月　月　月　月
見　自　向　燈　書　思　惟　後　枕　上　生
たゆひう○いゆ　ゆ　はゆ　の　ゆ
ハうせさ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

歲暮

壺流　茅　月　泥　也　燒　夕　灰　如　影　利　ハ　力
風　壺　易　向　人　和　書　葉　月　雨　後　夢　壺
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

燈火

あるきこをぬ　れ　炉ハ炉火を　ゆ
ゆ　き　を　をまゆくをゆ　と
○ゆをるハをゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
もうくをゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
○ゆ炉火ハ花の樹とをくくををゆ
人ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
○ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ほ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲云出ざる　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
○九月川の　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
○ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

黃蘗　綠醋　酒　酒　酒　酒　酒　酒　酒　酒
霜　野　馬　酒　書　鑑　東　月　夜　月　月
火　惡　獵　夜　樹　夜　對　來　終　月　有　書　惟
如　時　雖　碎　月　書　那　雜　歌　茅　思
うゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

霜

三秋　屏　雷　義　初　白　一　秋　林　東　紅
萬　物　秋　東　雜　壺　酒　時　冬　日　夜　月　夜　月　夜
月　壺　夜　月　夜　孤　婦　壺　上　山　水　盛

動先復回錦繡之色

雲子英源新雲芳義身映鑿新鶯

聲くこの影英亭鶯出く初鶯高殿人

黒稜風薫鶯啼春色

春をさしひとあえをもとやとく笑

雪

咲入梁まくの苑高海鮮ニ花度ニ

梅月四千里

紅の海ニ多男梅風花年一万株

○高のうぐひす鶯の孔雀の尾のちぬれぬるぬ

○清高風のひびきてくらぶひきそ

人のこの中ニ桃桐ハつるのはるもときそ

○高のうぐひす鶯の孔雀の尾のちぬれぬるぬ

ゆきぶ花とうん少る時行義卯十日某の
中低うり雪見をよ才一の歌よ出
○つるハ鶴ゆ見ハ腹る更好ゑ長臣ハ
鶴こうれば雅の性ゆくゆ山のうぶきと
まきゆの雪ゆ見ゆ寸しまるうれ雪
しと知く川をきうと鶴ぶ流のまの
わうのこうう
▲えうう月げをうしうれ水ハをさよ
ま和く形うこう
○春の雨けをうしうれ水ハをさよ
春の雨けをまのこうる地うも
春くうの春をうく山をゆひれバをく
又とうく楊よ入中うよ梨ゆう
○れきうえぬゆ春ハ春ぶ春ぶ春ぶ
うぶひゆうべうと澤を春のわうと牧
牧をゆうく移びのひうぶうきえてハうも
しわうまうこう
○うきえれハ雁う加ゆ春ゆ後ちうと春きと
ぶうゆ春の春を春ゆ後後の王霜ゆう
ううぶうるんとゆう
▲春の水を春風ゆきうくゆを水ま子うう

氷 附 春氷

氷封水面冬池春絃林頭夕有光

氷封水面冬池春絃林頭夕有光

春妨鶯啼春氷弦柳眼春氷

春妨鶯啼春氷弦柳眼春氷

春氷

春氷

氷消魚自恵銀鱗春浪漾玉牧

氷消魚自恵銀鱗春浪漾玉牧

胡蜜淹能金俊名陸逢出失忠

胡蜜淹能金俊名陸逢出失忠

やまうはの
うのこうも
はものうれ
うるうせる
うやうくらん

○ゆ春の春ハ春ハ春ハ春ハ春ハ春ハ
春ハ春ハ春ハ春ハ春ハ春ハ春ハ
春ハ春ハ春ハ春ハ春ハ春ハ春ハ
春ハ

○ひるまきの朗詠に所見なく所きかぬこのおれとも集のいろとうぞふとをくむ部残乃所々をとゝぶとをくむ部の集花此ふて愛ふるもとして後の集きをわひ〳〵

○これがいえおゝ夫をりよ婦のあきの夜よきぬをうどや月も移人ぞろよさやけく風きさまびしくきぬるのとゝもんしくうるしくきゝゆるとろう柳ハさねろうもをうにちろう蹲上の摘花の終まる八月九月四長夜とゝ終りをじて絶句二軸

扇

さ蕙草偏寄二秋扇一恩重

擣衣

淮南思婦秋擣帛月若風清砧杵急

右二句ふる実かたこれ

和漢朗詠集巻上終

2